

**【一方的な神の恵みによって救われる人生】**

説教者:鄭南哲牧師

本日聖書箇所:マタイの福音書1章1-6・16-17節

(Rev.Jung nam-chul)

「この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがた(自分自身)から出たことではなく、神からの賜物です。(エペソ人への手紙2章8節)」

おはようございます。一週間もみんなお元気でしたか。今日の本文である新約聖書の一番最初に出ているマタイの福音書の1章1節から17節まではイエス・キリストの系図が書かれています。マタイの福音書は当時主にユダヤ人のクリスチャンで構成された教会に宛てて書かれた御ことばです。そういうわけで、マタイの福音書では、ユダヤ人たちが一番信仰の先祖として尊敬していた体面的なお二人、アブラハムとダビデ王との関連付けてのイエスキリストの系図について書かれている御言葉であります。つまり、イエス・キリストが決して偶然ではなく、アブラハムの子孫、ダビデの子孫として来られ、お生まれになったのだと始めに書かれているわけであります。そして、イエスキリストのご誕生の前にたくさんの人々の名前があげられています。イエスキリストの御誕の背景となるこの系図を読んでいると、まさしく神様の恵みそのものであることがわかります。ここにあげられている人々を全部調べようとすると、かぎりがありませんので、何人かをあげてイエス様の系図の中に染みられている神様の恵みとご意志をみなさんとともに学びたいと願います。

1. 一方的な神の恵みを受けたアブラハムとダビデ王

まず、1節によると、イエスキリストはアブラハムの子孫、ダビデの子孫だと書かれています。

みなさん、アブラハムはどんな人でしたか。イスラエルのユダヤ人にとってはかかせない大切な信仰の先祖でしょう。しかし、あらゆる面においてアブラハムの信仰の生き方がすべて模範になったわけではありません。創世記12章と20章に、アブラハムは自分の身を守り、自身だけが生き残るために、2回も自分の妻サラを自分の妹だと、ずるくうそをついてしまいます。アブラハムは自分の身と命を守るために、妻は他人に譲っても、どうなっても構わないような、とても夫として無責任であって、卑怯的で臆病な姿でした。みなさんの中でそのような夫の方はいらっしゃいますか。とんでもない話でしょう。

1回くらいはまあ～アブラハムの過ちだと思って赦せるか分かりませんが、歳月が流れた後、再び、同じく、妻に対して、神の前で罪を犯してしまいます。アブラハムは特別に信仰があったから、神様に選ばれたわけではありません。我々と同じように、人間的な罪を犯しやすい普通の人でした。これは、彼がすばらしい模範になったから、神に選ばれたわけではなく、ただ一方的な神様の恵みのゆえでした。多くの人々の中で、アブラハムが選ばれたのも、信仰が与えられ救われたのも、神に導かれ、祝福されたのも、アブラハムが他の人と違って特別優れた人だからでは決してありません。彼に何か特別な資格があったからではなく、ただアブラハムへの神様からの恵みのゆえでした。

神様はアブラハムのすばらしい生き方や道徳性に関係なく、神の愛と恵みのゆえに彼を選んで、信仰を与え、信仰の先祖として立たせ、用いてくださったのです。アブラハムはまさしく神の恵みによって選ばれた人でした。

また、イスラエルの王であったダビデの場合はどうでしたか。ダビデ王もアブラハムと同じように、イスラエルの王様の中で一番尊敬しているすばらしい信仰の人物の一人でした。神様にまで‘わたしの心になつた者’だと言われるほどでした。

そうなのにもかかわらず、彼は自分の忠実な部下だったウリヤの妻バテ・シェバに対し姦淫の罪を犯してしまいます。そして、その出来事を隠蔽し、ごまかすために、ダビデ王は自分の権力を使って、バテ・シェバの夫、自分の忠実な部下のウリヤを殺します。その為に、うそを次々とつく罪を犯してしまいます。そして、結局部下の妻を自分の妻と奪いました。いくら人の心の中で淫乱な癖と心があるからと言って、まさかダビデのようなひどい罪を犯す人はいるのでしょうか。

それだけではなく、彼は数々の戦争でたくさんのおいのちを虐殺してしまいます。そういうわけで、神様は神の宮を作りたがっていたダビデにそれを許しませんでした。このようにダビデ王もかならずしも、特別な信仰を持ってすばらしく生きていた人だとも言えなくなります。それにもかかわらず、このダビデの名前が聖書でメシアなるイエスキリストの系図の中一人の先祖としてあげられていることはただ一方的な神様の恵みでしか説明ができません。だからといって、人生の中では罪を自由に犯しても大丈夫だということではありません。人はどこの歴史においても消すことのできない汚名(おめい)を残してしまいかちであることを、この信仰の人物たちの歴史を通してでも十分分かることだと思います。今日私たちの人生においても汚名を残すことは初めからやめましょう。罪だと知っていながらも、どんどん罪の世界に入り込みやすいのが人間の弱さであることをしっかり覚えて、油断しなで、謙遜に神様に頼り、祈って生きたいと思えます。

2. 一方的な神の恵みを受けた四人の女(タマル・ラハブ・ルツ・ウリヤの妻)

また今日の本文の中イエスキリストの系図の中で注目すべきところは、女たちの名前が載せられたということはめったにない内容です。なぜなら、当時ユダヤ人たちが守って来た伝統を破るとも例外的なことだったからです。

イエス様の当時は、女性や子どもは男と同じ扱われていた時代ではなかったのも、聖書ではとくに男性だけの人数が記録されるところもあるわけですから。なので、だれかの家門の系図に女性の名前が記されないのは当時当然なことでありましたが、

しかし、聖書の中それともイエス・キリストの系図に一人でもなく、4人の女たちの名前が載せられたということも不思議ですが、さらに彼女らはすばらしく、立派な女たちではなく、普通の女でもなく、みんな欠点だらけの女だったことにまた驚かされます。

まず、**①3節にタマル**という女が出ています。ユダによって、タマルからパレスとザラが生まれたと書かれていますが、これは普通の夫婦関係から生まれたわけではありません。その内容は創世記38章に詳しく書かれています。ヤコブの息子の中の一人だったユダには二人の息子がいました。その息子たちが若い頃、二人とも死んでしまいます。そのユダの残された嫁の一人がタマルでした。今も中東地方では女はベールをかぶって顔を隠して生活していますが、当時もそうでした。ある日、ユダは

自分の嫁だったタマルを町の遊女(ゆうじょ)だと勘違いし、彼女に入って、みごもらせてしまいました。三ヶ月たってから、夫のいない嫁タマルの妊娠の知らせを聞いて、舅(しゅうと)だったユダはひどく怒り、タマルを殺そうとします。殺されそうになったタマルは自分を妊娠させた人は自分の舅だったユダであることを証拠を見せながら知らせます。倫理的に、道徳的には考えられないことですが、これによって嫁だったタマルからパレスとザラが生まれ、ユダの家門は続けられるようになったわけでありませぬ。

次は②5節に出て来るラハブという女で出ています。彼女は当時エリコという町で体を売っていた遊女(ゆうじょ)の女でした。しかし、彼女はイスラエルの民たちが信じていた神様こそ、真の神様であられる存在であり、ずっとイスラエルの民を救い出し、導き、御守って下さっている真の神を信じていたので、イスラエルから遣わされた人たちがエリコの中で危機におわれていた時、彼らの身と命を守り、救ってあげた女でした。そんな遊女身分の女からダビデ王のおじいさんのおじいさんであったボアズが生まれるようになります。

次は引き続き③5節に出ている、ルツという女が書かれています。イエス様の系図に出て来る女の中一番賢淑で、美しい女でした。しかし、彼女はイスラエルの女ではなく、違う国つまり、神を信じない偶像崇拝をしていたモアブの国の出身の女性であって、自分たちだけが神に選ばれたと信じていたイスラエルのユダヤ人たちから見れば、ルツは異邦人の女でした。旧約聖書の中でルツ記1章を見ると、姑(しゅうとめ)であるナオミの息子だったマフロンという人の妻でした。夫だったマフロンが早く死んだのにもかかわらず、ルツは姑(しゅうとめ)であるナオミと一緒にイスラエルのベツレヘムにまでついて行きながら、姑ナオミとイスラエルの民が信じる神様を信じます。その後、ベツレヘムでルツは先のラハブから生まれたボアズと出会い結婚してルツからオベデが生まれ、オベデからダビデ王のお父さんであったエッサイが生まれ、その後ダビデ王が生まれるように繋がります。

イスラエルの人ではない、他国の女から、ユダヤ人の、それともメシアなるイエスキリストの系図に載せられたことは当時、どれほど破格的(はかてき)だったのでしょうか。申命記7章1節から読んで見ると、神様はイスラエルの民族をエジプトから救い出し、カナンという約束された新しい約束の地に入らせました。そこで神の祝福をいただく民として、カナン一切の偶像崇拝の文化に染(そ)まらないように、混血(こんけつ)されないように厳しく命じておられました。しかし、カナンの異邦人との結婚を禁じられた神様の命令をやぶったルツの夫マフロンがモアブの女ルツと結婚したことは確かな罪でした。ルツの個人的な人生そのものがどんなにすばらしかったとしても、彼らは神様の命令をやぶったわけです。それなのにもかかわらず、決してイエス・キリストの系図に載せられてはいけない、載せられないルツの彼女の名前が載せられた自体が奇跡ではないでしょうか。それは人からではなく、神の一方的な恵みにゆえでしか説明が出来ません。

次は、④6節のウリヤの妻も出ています。結果的にはダビデの妻になりましたが、イエス様の系図にはちゃんとウリヤの妻だと書かれています。パテ・シヨエバだとも言われず、ウリヤの妻だと書かれているのですね。先ほど、ダビデ王の罪に対して説明しましたが、ダビデと姦淫の罪を犯した女でした。何千年の歴史の中で、数々のメッセージの中であげられる名前です。強調しなくてもいいほどだと思います。

マリアも出ていますが、マリア以外のこの四人の女の中で実は三人がイスラエル人ではなく、異邦人でした。この4人の彼女らの身分すら、あまりよくなく、色々欠点だらけの女たちでした。みなさん、今までの話を聞きながらどう感じられましたか。えっ～！本当かよ？と疑問に思われた方々はいませんか。期待したこととまったくはずれで、この世を救うために来られたメシアなる神の御子のイエスキリストの系図は何か王族や貴族、それとも少なくとも道徳的に、人々から尊敬される立派な人たちだっただろうと思っただけでいいなかったでしょうか。

人々は自分の過去を隠しがります。しかし、この世に来られたイエス・キリストのすばらしい系図には、汚れたまま、欠陥だらけで、暗かった過去をもっている女らがそのまま登場されています。その理由は何でしょうか。みなさんはいったいなぜ神様はこれらの出来事が許されたと思いますか。

後もう一人の女が書かれています。16節マリアです。イエスキリストを生んだ母マリアです。カトリックでは偉大なイエスを生んだ者としてその母マリアまで神的存在として、祈ったり、偶像化してしまっていますが、聖書ではマリアをどのように表していますか。

ルカの福音書1章26節以下では御使いガブリエルがマリアに告げる場面です。28節に、特にマリアに「おめでとう。恵まれた方。」だと告げています。マリアはただ、神の恵みを受けた女でした。マリアは神の恵みを受ける者であって、恵みを与える者ではありません。マリアも救い主が必要でした。確かに神の御子が人間として来られる為に、マリアを通してお生まれになったことは事実ですが、しかし、同時にマリアも神の恵みを受け、イエス・キリストを救い主として信じて救われた我らと同じ人にすぎません。つまり、マリアも同じく罪人の人間にすぎないということでイエス様の人間の系図の中記されているわけでありませぬ。

すると、ごく普通の女であったマリアが選ばれた理由は何でしょうか。ずっと旧約聖書で多くの神の予言者たちによって予言された神のすべての御言葉を成就させるため、人類の救い主として来られるイエスキリストのためのただ一方的な神の御選び、選択だったことが分かります。神の一方的な恵みを選ばれ、用いられたマリアが恵まれた人生となられたわけでありませぬ。

3. イエスキリストの系図に染みられて神のメッセージ:ただ神の一方的な恵みのゆえに信仰によって救われた!

「神はあなたがたに、あらゆる恵みをあふれるばかりに与えることができになります。あなたがたが、いつもすべてのことに満ちたりて、すべての良いわざにあふれるようになるためです。」(コリント人への手紙第二(2Corinthians)9章8節)

「しかし主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。わたしの力は弱さのうちに完全に現れるからである」と言われました。」(コリント人への手紙第二(2Corinthians)12章9節)

「ところが、神の恵みによって、私は今の私になりました。(コリント人への手紙第一15章10節)」

恵み(カリス)というのは、「受ける資格がない人に無条件的に授けられる一方的な愛と好意」です。

(恵み(カリス)から派生されたことばが感謝(ユカリストシア)・喜び(カラ)＝ですから、神の恵みなしには人生の真の感謝も、喜びも気づかれず味わえることも出来ません！)

実は、ここには、とても大切な神の御心とメッセージが含まれています。それは一言でいうと、**「一方的な神の恵みの故、その計り知れない神の恵みのゆえに、信仰によって彼らは救われた！」**という神の深い愛のメッセージが染みられているわけでありま
す！つまり、あんなタマルにも希望がある！あんな神を知らず偶像崇拜をしていたルツも信じれば救われる！あんな過去の身分のラハブにもイエスキリストの系図に入れる！あんな罪を犯したパテ・シェバであっても信仰の系図に名が記されることが許される！

神様は今日のわれらにだれでも、どんな時でも変わらないその一方的な恵みのメッセージを伝えるために、ことさらに、タマル、ラハブ、ルツ、パテ・シェバの女名をイエスキリストの系図に含ませて下さったのです。このような神の御心とメッセージは**「エペソ人への手紙2章8節」**によくあらわれています。**「この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがた(自分自身)から出たことではなく、神からの賜物です。」**(エペソ人への手紙2章8節)

マタイの福音書ではイエス・キリストのそのすばらしい系図の中に暗闇の罪の中いた人や欠陥が多かった過去を持っていた人物たち、女たちが登場しています。その理由はなぜでしたか。

この質問はつまり、神様がどうして今日罪と欠陥が多い我々に信仰を与え、救って下さる破格(はかく)的な出来事を許してくださっているのかという質問と同じであります。それを一言でまとめると、**「ひたすら神の恵みと哀れみの故であるから」**です。

旧ソ連の共産党指導者であったヨシフ・スターリンが政権を握ったとたんが一番まず、やったことが自分の小学校の同窓(同期)生たちをみんな調べ殺してしまったそうです。自分の過去の貧しかった事や恥ずかしかった事をほかの人たちに隠したかった、ばれたくなかったことがもし知られることに大嫌いで、不安で耐えられなかったからでした。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！

人たちは自分の過去の傷や過ちを隠そうとしたりします。ますます自分の罪や自分の欠陥を隠そうとしたりします！

「実は、すべての知っておられる神の御前で、我らもみんな本来みんなアブラハム、ダビデと同じような過ちや欠陥、罪だらけの人たちであり、神の前でタマルとラハブ、ルツ・ウリヤの妻のような罪人たちではありませんか。しかし、我らが我らの罪を隠さないで、神様の前で正直に言い表し、告白するならば、神様は真実で正しい方ですから、我らの全ての罪と咎をきよめ、赦して下さいと確実に約束されています！！

「もしわたしたちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義(悪)からきよめてくださいます。」(第一ヨハネ1章9節)」

そして、全ての我らの罪と咎を一切覚えなく、救い主イエスキリストを信じる全ての人々に救いの恵みを施して下さいと約束して下さい。

「エレミヤ書31章34節」「「主のことはば。わたしは彼らの不義を赦し、もはや彼らの罪を(二度と)思い起こさないからだ。」

詩篇103篇10,12節」「「10私たちが罪にしたがって私たちを扱うことをせず、私たちの咎にしたがって私たちに報いをされることもない。12東が西から遠く離れているように、私たちのそむきの罪を私たちから遠く離される。」

「イザヤ書43章25節」「「わたし、このわたしは、わたし自身のためにあなたのそむきの罪をぬぐい去り、もうあなたの罪を思い出さない。」

4.溢れる神の恵みは愛の故であります！

愛する信仰の家族のみなさん！なぜ神様はまったく資格のないこんなに人々に、そして我々にまでも計り知れない恵みを与えて下さって今も下さるでしょうか。我らの全ての罪を赦し、きよめ、救いを与えて下さる神の溢れる恵みはただ我らに向かう神の憐れみと愛のためではないでしょうか。

愛は多くの罪と咎を覆って下さいます。イエスキリストが人間の姿を取り、この世に来られ、十字架にまで付けられたのは神の愛の為でした。**「ヨハネの福音書3章16節」**「「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」

「ヨハネの手紙第一4章9～10節」「「9神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちにいのちを得させてくださいました。それによって神の愛が私たちに示されたのです。10私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめのささげ物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」

「このキリストにあつて、私たちがその血による贖い、背きの罪の赦しを受けています。これは神の豊かな恵みによることです。」(エペソ人への手紙(Ephesians)1章7節)」

サタンは我らの良心を巧妙に、たくみに利用して、神様と我らの間を必死に離れさせようとしています。一番大切な神と人の関係全ての望みを切り捨て去るようになせようとしています。神様をただ恐ろしい存在かのようにさせようとしています。我らに絶えずこうだまし、欺こうとしています。

‘お前のような資格のない者がどうして教会に通えるのか’、‘お前のような人を神様が出会って下さる思うのか’
‘お前のような人が神に赦され、救われると思うのか’、‘お前の過去が、罪がばれたらどれほど恥ずかしいのか、言うな告白するな、ずっと隠し、だまっていなさいよ！’と。

だまされないで下さい！もし、我らがアブラハムようで、ダビデのようで、タマルのようで、ルツのようで、ラハブのようで、バテ・シヨエバのようであっても、我らも神の溢れる恵み、一方的なその神の恵みのゆえに、その神の大なる愛を信じ受け入れ、掴むとき、イエスキリストの救いの系図の中に我らも入れる事を忘れないで下さい。我らはいつも聖書を通して、我らに向う神の恵みのご意志と神の深い愛を読み、感じなければ、聖書を正しく読んでいることではありません。

愛する信仰の家族みなさん！ 今までもそうですし、今年中にも我らは神様の前でどれほど多くの過ちや、罪を犯してしまってきたでしょうか。 今年中にも弱くてどれほど罪と妥協してしまい、誘惑に何度も負けて失敗してしまってきたでしょうか。 しかし、我らに今日も生ける希望と望みがあります！それは、こんな我らにも今も変わらず溢れるほど注いで下さる一方的な神の恵みがあるからです！ こんな我らでも神の愛が我らに豊かに注がれているからです！

切に願わくは、今日この時間、そして毎日注がれる一方的な神の御恵みと限りない愛をしっかりと受け止め、その神の恵みが我らを生かし、日々生ける力となりますようにお祈り申し上げます！もうつぶやくのをやめましょう！我らの人生のつぶやきや不満が今日溢れる神の恵みよってどれほど感謝で、祝福された、美しく幸いな人生であるのか主が悟らせて下さいますように切にお祈り申し上げます！すべてが神の恵みでした！すべてが神の愛のゆえでした！これから一生、どんな時でも神の恵みを覚えて、すべてのことに感謝して歩む新たな決心を御前に捧げる今日の礼拝の時間となりますように、愛する主イエスキリストの尊い御名を通してお祈りいたします！共にあらゆる戦いの中で信仰によって勝利する恵みの主人公たちとなりますように救い主イエスキリストの御名によってお祈り致します！アーメン！

(追加)5. イスラエルの歴史に表される神様の一方的な恵み

本文17節を読んでみましょう。「それで、アブラハムからダビデまでの代が全部で十四代、ダビデからバビロン捕囚までが十四代、バビロン捕囚からキリストまでが十四代になる。」

これはイスラエルの歴史を主に三つの時期に分けています。第一期がアブラハムからダビデまで、第二期はダビデからバビロンの捕虜(捕囚)になる時期、第三期はバビロン捕虜(捕囚)からイエスキリストが生まれるまでの時期です。

それぞれの時期が全部十四代だと書かれていますが、正確に言うと十四代ではなく分かりやすくそのように分けたようです。私たちが歴史を学ぶ時、分かりやすく古代史(こうだいし)、中世史(ちゅうせいし)、近世史(きんせいし)分けるのと同じように、聖書でもこのように神の歴史を分けているのです。

まず第一期であるアブラハムからダビデまではアブラハム、イサク、ヤコブの時代はたえず彷徨(ほうこう)の歴史です。

その次はモーセを中心にした捕虜(ほりよ)の歴史です。つまり、奴隷の歴史です。

そして第二期であるダビデからバビロン捕囚までの歴史はどうか。もちろん、ダビデ王やソロモン王の時代は星のように輝いた時期もありましたが、全体的に見るとサウル王の時代から、すでに神様に対する不従順と失敗の繰り返される歴史だったと言えます。第三期のバビロン捕囚からキリストの誕生前までの時期は捕虜と挫折の暗黒の時期です。メシアによる回復と救いの光のみが唯一待ち望んでいた時期でした。

このイスラエルの歴史を見ていると、苦難の連続の歴史です。なのに、一体なぜ神様はこの民族を選び、この民族からイエスキリストを生まれさせ、救おうとされたのでしょうか。虫けらのように捨てられた小さな民族、苦難と罪の暗い歴史の連続、この民族を通してなされる神様のすばらしい恵みと救いをイスラエルの歴史と聖書のイエスキリストの系図を通してもう一度確認することができます。ユダヤ人という言葉は英語でjewと言いますが、これは今の時代だけではなく、バビロン捕虜時代から、ののしられる意味で言われ、使われた言葉でした。これほど軽蔑された民族、苦難と彷徨の民族を神様は説明できない一方的に選び取り、そこから全人類を救われるメシアなるイエスキリストがお生まれになるようにさせたということは決して、イスラエル民族が特別な民族だったからとか、他民族より優れたからでは決してありません！イスラエルの歴史を通してでも、どこを見ても、決して神に選ばれ、救われるべき資格があったわけではないことがはっきり分かります。そしたら、なぜでしたか。

ただ、神様の一方的な恵みでしか説明できません！無条件的な神の愛と恵みでしか考えられません！ イエス様の系図が聖書に書かれている理由はそのメッセージを神様が伝える為にあります。私たちがイスラエルのの人々と同じように、欠陥だらけで、罪人であり、生きる人生の目的すら分からず、さ迷っていた人生だったのではありませんか。神の前で罪を罪だとも知らず犯していた罪人だったのではありませんか。まるで、我らも人生そのものが苦難と試練の連続だと叫んでいたかも知れません。そんな私を神様は神のこどもとして選んでくださり、愛しておられ、救いに導いて下さいました。

本日イエスキリストのご誕の背景となるこの系図を通して、どれほど罪人であってもその人を愛され、罪と暗闇の中にいた彼らを全的な神の恵みにゆえに彼らを救い一人一人の人生を変え、神の栄光の為にどれほど尊く用いて下さったのかを証して下さる否定できない歴史の真実を神は証して下さっています。2023年前、その暗闇と苦難の歴史の中から、罪人を救うために救い主としてイエス・キリストは来られました。そして、イスラエルのメシアとして来られたそのイエス・キリストがいまや全ての人類の救い主であり、私の救い主であります。そして、その救い主が今もなお我らとともにおられる、今も我らに大なる恵みを注いで下さっています。是非残りの7月からも日々、ひたすら神の恵みを求め、望み、生ける神の恵みの力を頂き頼りながら、感謝をもって主と共に歩める全クリスチャンプレイズチャーチ神の家族とみなさんとなりますように！神の恵みの主人公たちとして益々恵まれ、祝福されるみなさんとご家族となりますように、救い主イエスキリストの御名によってお祈り致します！